



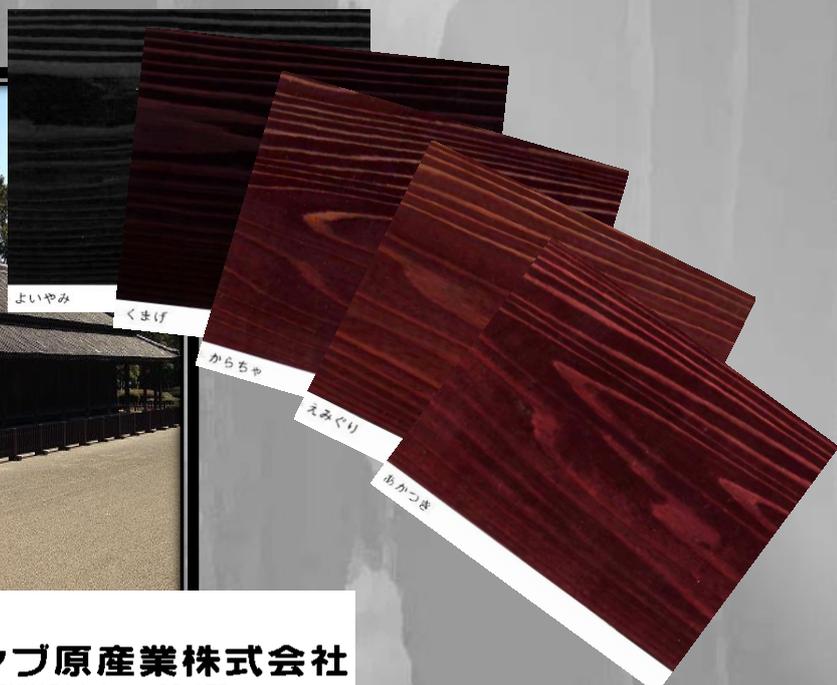
古色木目天然染料 久米蔵

“久米蔵”とは

“久米蔵”とは新しい木材を古風に見せる染料です。専用仕上げ材に水性エマルジョン樹脂を採用し、元来の木目を活かした風合いを残しつつ、色返りの抑制・耐候性の向上を実現しています。

古来より言い伝えられている久米蔵は、主材である土を^{にかわ}膠と水で溶いて柱などに手のひらで擦りつけ、ごま油を塗って仕上げるものでした。しかし、現在ではこの工法もなくなり、材料自体も入手困難になっているのが現状です。

そこで、その久米蔵を再現し、刷毛やローラーで対応させたものが、弊社の古色木目天然染料“久米蔵”です。



ヤブ原産業株式会社
YABUHARA Industry CO.,LTD

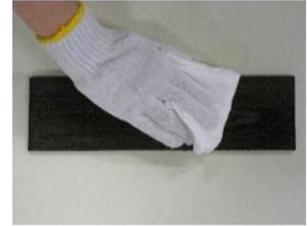
施工手順



ペーパー掛け



染料塗布



擦り込み

好みの濃さによって1~2回



仕上げ材塗布(2回)



完成

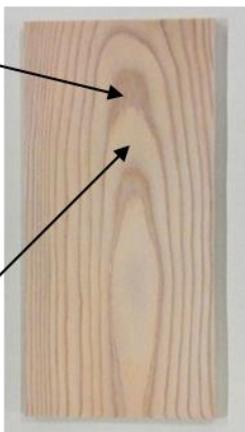
施工期間は最短2日間

商品仕様

商品名	荷姿	入目	原液塗布量	養生時間	塗装具
古色木目天然染料久米蔵	ポリ容器	2kg	100 (50×2)	1回目 表面乾燥後	刷毛・ウエス
				2回目 23°C 24時間以上	
久米蔵専用仕上げ材	ポリ容器	2kg	150 (75×2)	1回目 23°C6時間以上	刷毛・ローラー
				2回目 23°C 24時間以上	

標準色：よいやみ、くまげ、からちゃ、えみぐり、あかつき の5色

冬に成長した層



夏に成長した層

なぜ久米蔵は木目を活かせるのか？

木目(木材の年輪)は夏と冬の成長の差でできるものです。夏場の暑くて日照時間の長い時期は木も大きく成長しますが、冬場の寒くて日照時間の短い時期の成長は小さくなります。この冬に成長した層は、密度が濃く年輪の模様を作ります。

久米蔵は染料であり、木材に浸透していきますが、冬の密度の濃い層は浸透する量が少なくなります。つまり、年輪に合わせて浸透量が変わりますので、年輪の模様をそのまま活かすことが出来るのです。

お問い合わせは
コチラ